



第 390 号

令和7年6月12日発行

- 巻頭言
- 北海道中学校長会総会研修会
- 役員・理事一覧
- 運営方針及び活動の重点
- 地区だより・論文
- さりながら・文芸
- 事務局日誌



こどもまんなかへ 堅実に歩む道中

北海道中学校長会 会長 山田 誠一

令和7年度の会長として御承認いただきました、室蘭市立室蘭西中学校の山田誠一でございます。北海道中学校長会の歴史と伝統を引き継ぎ、北海道の中学校教育の発展のため、北海道の未来を担う子供たちのために全力を尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、国連においてはSDGs、OECDにおいてはウェルビーイングというキーワードをもって、経済発展中心から人間中心の国家、社会の在り方を求めるパラダイムシフトが進行しております。我が国においても同じ方向で第4期教育振興基本計画の策定、北海道においても教育推進計画において、政令市の札幌市でも第2期教育振興基本計画において、人間性の向上、子供を中心に据えた理念の実現が進められています。

北海道中学校長会では、その77年の歴史をひもといてみると、我々の先輩方は子供、教職員、学校の未来のため、いつの時代においても堅実に研さんに励み、オール北海道の意識高く、一人一人の子供を主語にする学校教育の実現にしなやかさをもって努めてまいりました。この気概を引き継ぎ、前段で述べた教育情勢を総合的に鑑みた学校からの教育改革の実現に向け、本年度は「こどもまんなかへ 堅実に歩む道中」をスローガンに掲げます。今回のスローガンには道中表記基準である「子

供」ではなく、敢えて平仮名表記の「こども」を用いました。これは国や道の考え・施策と連携・協働する意思表示であります。また、本スローガンには「こどもを主語にした教育の実現に向けて」という目標としての意味と、「こどもを主語に据えて行動する」という道中自身の行動指針としての両方の意味を込めました。さらに、「堅実に歩む」という言葉には道中の方針、施策を決定するにあたり、諸先輩方が築き上げた丁寧な説明による共通理解と慎重審議の姿勢の継承の意味を込めました。

教育情勢と伝統を踏まえた様々な活動を今年度も予定しております。中でも9月26・27日に室蘭市で開催される「第66回北海道中学校長会研究大会胆振・室蘭大会」では、全日中会長から教育情勢についての説明や校長同士の対話による実践交流、そして記念講演等を通して私たち校長の職能向上を図るとともに、相互のつながりを更に強固にすることができることを願っております。

結びになりますが、北海道中学校長会の活動は北海道教育委員会、加えて多くの教育関係団体の皆様の御指導御鞭撻、そして何よりも全道20地区、553人の会員の皆様の御支援と御協力によって支えていただいておりますことに感謝申し上げます。今年度も変わらぬ御厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

北海道中学校長会
第98回
総会・研修会

第98回北海道中学校長会総会・研修会が、4月25日にホテルライフォート札幌を会場に開催された。全道から代議員35人と地区理事20人、その他役員来賓等41人が参加した。会長挨拶、感謝状贈呈に続き、北海道教育委員会教育長様等が祝辞を述べられた。北海道教育庁学校教育局長様の講話後、議事に入り令和7年度運営方針及び活動重点案、各部業務計画案、会計予算案、第66回北海道中学校長会研究大会胆振・室蘭大会等に係る審議及び承認後、総会宣言・決議を採択した。また、同日第2回副会長研修会と各専門部研修会も開催された。

第98回北海道中学校長会総会・研修会によせて

メッセージ

第98回北海道中学校長会総会・研修会の開催を心より喜び申し上げます。

北海道中学校長会会員の皆様におかれましては、日頃より、教育現場の充実を図りながら、リーダーとしての資質向上に努められ、学校教育の振興に多大なるご尽力をされていることに、深く敬意を表します。

中学校の3年間は、生徒の興味や適性などの多様化が進み、それぞれが自己を見つめ、物事のきまりや意義を自覚し、社会の一員として成長していく大切な時期です。デジタル化や脱炭素化といった大きな変革の時代を迎える中、本道の未来を担う子どもたちは、こうした変化を乗り越え、新たな発想と行動力で夢や課題に挑戦し、たくましく生き抜いていく力を身につけることが重要です。

道では本年4月、子ども政策を総合的かつ計画的に推進していくため、新たに「北海道子ども基本条例」を施行しました。この条例の下、「こどもまんなか」の考え方に立って、「学び」と「育ち」の政策の緊密な連携を図り、家庭、学校、地域社会など関係者と連携し、子どもの健やかな成長を支えてまいります。

北海道に生まれ育ち、学んだ子どもたちが、ふるさとへの思いを胸に大きく成長し、新しい時代の北海道の担い手として活躍できるよう、皆様におかれましては、今後とも、高い見識と指導力をもって、本道教育の充実にお力添えをいただきますことを、心よりお願い申し上げます。

結びに、北海道中学校長会のますますのご発展、並びに本日ご参加の皆様のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げ、お祝いのメッセージといたします。

令和7年4月25日

北海道知事 鈴木直道

宣言

今日、我が国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係で満たされる持続可能な社会の創り手を育成する使命を担っている。

私たちは、自然災害や新たな感染症の発生、グローバル化の進展や急速な技術革新など社会状況が変化中、新しい時代の中学校教育の課題に対応し、教育基本法をはじめとする教育関連法規や学習指導要領の趣旨を踏まえ、自らの責任において全日中新教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、教育の真価を示さなければならない。

また、本道においては、将来を担う子供たちが、生まれ育った地域や環境、障がいの有無等に関わらず、多様性を認め互いを尊重し、夢と希望を抱いて学校に通い、地域社会の発展のために尽くす人材へと成長できるよう、その実現に向けた学校教育の推進が求められている。

北海道中学校長会は「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育」の推進と当面する諸課題の解決に努め、新たな中学校教育の創造を目指し、道民の負託に応えることを宣言する。

決議

第98回総会・研修会にあたり、以下の事項を決議し、その実現を期する。

- 一、人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」とともに「よりよい社会を形成する力」を育む教育を推進する。
- 一、全日中新教育ビジョンを踏まえ、学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな体の育成を推進する。
- 一、現在の学校教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一、創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会の信頼に応える教育を実現するため、人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備・充実を期する。
- 一、「教科書無償給与制度」「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」の堅持を要請し、教育水準の維持向上を期する。
- 一、新しい時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮するとともに、「学校における働き方改革の推進」「教員の勤務実態を踏まえた環境整備」を要請し、有効かつ持続可能な指導・運営体制の構築を期する。
- 一、東日本大震災や北海道胆振東部地震をはじめ近年多発する災害等により被害を受けた地域の復興を期し、教育活動の充実に向けた支援と全道各地区・各学校における防災教育・安全教育の一層充実を期する。

令和7年4月25日

第98回 北海道中学校長会 総会・研修会

令和7年度 北海道中学校長会 役員及び理事

役職	氏名	市町村	学校
会長	山田 誠一	室蘭	室蘭西
副会長	1プロ 代 永 研	小樽	菁園
	2プロ 亀田 寛人	留萌	留萌
	3プロ 宮腰 屋 由	江差	江差
	4プロ 山田 誠一	室蘭	室蘭西
	5プロ 伊藤 道彦	豊頃	豊頃
	6プロ 吉本 将樹	札幌	稲穂
事務局長	高橋 正幸	札幌	羊丘
事務局次長	田丸 明史	札幌	発寒
事務局次長	前田 真志	江別	中央
会計理事	伊藤 仁弥	小樽	朝里
運営委員	1プロ 駒場 秀剛	小樽	西陵
	2プロ 大熊 修一	旭川	六合
	3プロ 白川 卓	函館	港
	4プロ 松野 岳彦	岩見沢	明成
	5プロ 嶋 健	帯広	西陵
	6プロ 伊藤 達也	札幌	八軒
地区理事	石狩 安 榮 智裕	恵庭	恵明
	札幌市 桑原 俊二	札幌	中島
	後志 林 尚起	赤井川	赤井川
	小樽市 吉岡 智尋	小樽	北陵
	上川 袈田 佳奈恵	当麻	当麻
	旭川市 千葉 雅樹	旭川	緑が丘
宗谷 吉崎 健一	稚内	稚内東	
留萌 嶋本 敏幸	増毛	増毛	

役職	氏名	市町村	学校	
地区理事	檜山 関田 貴人	上ノ国	上ノ国	
	渡島 増田 正弘	八雲	八雲	
	函館市 山口 哲也	函館	亀田	
	空知 野村 勝紀	夕張	夕張	
	胆振 能登 敬久	苫小牧	開成	
	日高 中田 実千代	新ひだか	三石	
	十勝 佐々木 典郎	音更	音更	
	帯広市 今野 典之	帯広	南町	
	釧路 名和 勝紀	鶴居	鶴居	
	釧路市 土江田 亮一	釧路	景雲	
	根室 葛迫 勝秋	別海	中春別	
	ホーツク 橋本 正之	北見	南	
	経営部	副部長 北村 剛	石狩	花川南
		幹事 野澤 孝志	恵庭	恵み野
幹事 岡田 一之		北広島	大曲	
研修部	副部長 川原 明子	札幌	稲積	
	幹事 中井 幸一	札幌	篠路	
	幹事 福井 浩史	札幌	福移学園	
対策部	副部長 小泉 寧	新十津川	新十津川	
	幹事 松田 淳二	三笠	三笠	
	幹事 青山 天生	旭川	永山南	
情報部	副部長 鏡 武志	苫小牧	和光	
	幹事 宮田 真基	むかわ	鶴川	
	幹事 山岸 弘昇	苫小牧	ウトナイ	

第98回 北海道中学校長会総会 感謝状贈呈者芳名

【退会者】

御指導ありがとうございました

役職	氏名	学校名	経歴
会長	河村 克也	岩見沢市立東光中学校	R6 会長, R5 事務局次長 R4・R3 対策副部長, R2 対策幹事
副会長	後藤 正弘	北斗市立大野中学校	R6 副会長, R5 地区理事
副会長	能戸 貴英	帯広市立南町中学校	R6 副会長, R5・R3 地区理事
副会長	三浦 英悟	札幌市立琴似中学校	R6 副会長, R5 事務局次長, R4 事務局次長 R3 研修副部長, R2・R1 研修幹事
運営委員	平田 隆男	中富良野町立中富良野中学校	R6 運営委員
地区理事	福澤 秀	旭川市立明星中学校	R6 地区理事
地区理事	田上 直広	函館市立湯川中学校	R6・R5 地区理事
地区理事	小玉 功	釧路市立幣舞中学校	R6 地区理事, R5 運営委員
元会長	森田 聖吾	旭川市立忠和中学校	R5 会長, R4 事務局次長, R3 対策幹事
元副会長	村上 俊一	小樽市立菁園中学校	R5 副会長, R4・R3 会計理事
元副会長	盛永 明寿	日高町立富川中学校	R5・R3 副会長, R4 運営委員

役職	氏名	学校名	経歴
元副会長	徳増 秀隆	北見市立小泉中学校	R5 副会長
元運営委員	渡辺 敬方	伊達市立星の丘小学校	R5 運営委員
元地区理事	工藤 亘	旭川市立中央中学校	R5 地区理事
元地区理事	瀧澤 義守	登別市立幌別中学校	R5・R4・R2 地区理事
元地区理事	中村 俊緒	池田町立池田中学校	R5 地区理事
元地区理事	富田 和幸	標茶町立標茶中学校	R5 地区理事
元地区理事	畠山 学	千歳市立北斗中学校	R4 地区理事, R3 経営幹事
元地区理事	秀島 起也	札幌市立中央中学校	R4 地区理事, R1 運営委員
元地区理事	伊藤 聡	岩見沢市立栗沢中学校	R4 地区理事
元幹事	佐藤 誠	江別市立中央中学校	R2 経営副部長, R1・H30 経営幹事
元幹事	五十嵐邦春	寿都町立寿都中学校	R1 対策幹事

※ 役職名については、直近に担当した役職の順に作成しました。

〈第1号議案〉 令和7年度 運営方針及び活動の重点

激動する国際社会において、我が国では、21世紀にふさわしい、持続可能な社会の仕組みを構築するため、行財政改革、規制緩和、地方分権などの動きが進行している。

教育界では、教育基本法及び教育関連法規の改正、第4期の教育振興基本計画策定など一連の教育改革が行われ、学習指導要領の改訂により、「社会に開かれた教育課程」及び「主体的・対話的で深い学び」の実現、「カリキュラム・マネジメント」の確立が求められている。また、国が進めるGIGAスクール構想により、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、一人一人の個別最適な学びや、協働的な学びを充実させ、実現するなど、「令和の日本型学校教育」を構築することも求められている。さらに、第4期の教育振興基本計画では、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」並びに「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が計画のコンセプトとして位置付けられるなど、部活動の地域展開と併せて、中学校の教育の大きな変革となる取組も始まっている。

本道においては、教育課題の解決と地域創生の実現に向けた「自立」・「共生」の基本理念を継承し、「子供の可能性を引き出す教育の推進」「教育の質を高める環境の確立」「持続可能な教育の実現」の施策を柱とした新たな「北海道教育推進計画」が、令和5年度に策定された。

私たち中学校長は、学校教育の課題を踏まえ、人間尊重の精神に徹し、子供たちの「社会を生き抜く力」と「よりよい社会を形成する力」を育むとともに、生徒・保護者・地域の信頼と期待に応えるため、「こどもまんなか」の考えをもとにした教育活動の推進や多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成など、新しい時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮し、学校からの教育改革を推進しなくてはならない。併せて、本来、学校が担うべき業務の明確化・適正化をはじめ、学校の組織運営体制の見直し、教職員の意識改革等により、「学校における働き方改革」の推進も図る必要がある。

また、東日本大震災や北海道胆振東部地震の風化防止に引き続き取り組むとともに、令和6年1月1日に発生した能登半島地震をはじめ、近年、災害等が多発していることから、今後起こりうる災害に対し、能動的に対応できる生徒を育成するため、防災教育・安全教育の更なる充実を図る必要がある。

以上の認識に立ち、北海道中学校長会は、校長としての主体性と指導性、しなやかさを発揮しながら、会員相互の連携の下、「全日中新教育ビジョン 学校からの教育改革（令和2年5月）」の内容を踏まえ、「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育」の推進と全道の中学校が抱える教育課題の解決に向けて、全日本中学校長会綱領及び、本会会則に則り、次の運営方針並びに活動の重点等に基づき、本会を堅実に運営していく。



高橋 正幸 事務局長
(札幌市立羊丘中学校)

1 運営方針

- (1) 本会の目的である「中学校長の職能の向上と、北海道の中学校教育の振興」を図り、校長相互の協力や信頼関係を一層深めるとともに、会の総力を結集して活動の充実と諸問題の解決に努める。
- (2) 道教委をはじめ、関係諸機関等との連携を深め、国及び道・市町村教委の動向を踏まえて適切な対応に努める。
- (3) 校長としての学校経営力の向上を図り、道民の負託に応える中学校教育の創造に努める。

2 活動の重点

- (1) 本会の組織と機能を充実させ、活動の活性化を図る。
 - ① 「オール北海道」として一体となった教育活動の推進
 - ② 全日中新教育ビジョンを踏まえた学校からの教育改革の推進
 - ③ 教育改革を進めるための具体的な活動に関する適切かつ迅速な対応と情報の発信

- ④ 組織体制及び運営の継続的な見直しと改善
- ⑤ 全日中、四種校長会及び教頭会等の教育関係諸機関や、PTAをはじめとした諸団体と連携した活動の推進
- ⑥ 「第66回北海道中学校長会研究大会胆振・室蘭大会」の開催
- (2) 確かな学力の定着、豊かな心と健やかな体を育むための「カリキュラム・マネジメント」に努める。
 - ① 全日中新教育ビジョンが目指す「確かな学力」、「道徳教育」、「キャリア教育」、「健康教育・安全教育」、「いじめ防止」等の充実を図る特色ある教育課程の編成・実施
 - ② 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と、それらを活用する能力及び学びに向かう力を育てる指導・評価の工夫・改善
 - ③ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還による一体的な充実
 - ④ 「こどもまんなか」の考えをもとにした教育活動の推進（自己肯定感、自立した学習者）
 - ⑤ 豊かな心と健やかな体を育てる道徳教育、体験活動、スポーツ教育、芸術教育、健康教育の充実
 - ⑥ 共生社会の実現に向けた教育の推進（多様性、包摂性）
 - ⑦ 地域社会の人的・物的教育資源の効果的活用を通じた「カリキュラム・マネジメント」の確立及び社会に開かれた教育課程の推進
 - ⑧ いじめ防止、不登校生徒への支援の充実、虐待の未然防止や早期発見・早期対応、子供の貧困対策など、誰一人取り残されない子供の学びと成長に向けての環境の整備・充実
 - ⑨ 将来の予測が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていく人物の育成
 - ⑩ 多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてのウェルビーイングの向上
- (3) 学校の自主性・自律性の確立と学校経営の改善に努め、家庭や地域社会に信頼される学校づくりを推進する。
 - ① 学校評価の効果的な運用及び教育課程の編成・実施・評価による改善
 - ② 研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励を核とし、北海道における教員育成指標を踏まえた教職員の資質の向上を図る研修の促進と内容の充実
 - ③ 家庭・地域社会との連携・協働による教育活動の充実（コミュニティ・スクールなど）
- (4) 多様な教育活動を推進するための教育諸条件の整備・充実を期する。
 - ① 新たな教職員定数改善計画策定による教育の質的向上と、義務標準法の一部改正による35人以下学級の中学校2年・3年への早期拡大とともに、小規模校における定数改善
 - ② 学習指導要領に基づいた教育活動を展開するための施設・設備や仕組みの整備・充実
 - ③ 「学校における働き方改革」を踏まえ、自治体等が主体となった休日の部活動の地域展開への推進と部活動の教育的機能や役割を補完する社会教育環境の整備の推進
 - ④ 学校における働き方改革の更なる加速化、教師の処遇改善、学校の指導・運営体制の充実の一体的・総合的な推進
 - ⑤ GIGAスクール構想推進に向けた環境整備及びサポート体制の充実
 - ⑥ 新たな感染症等に備えるための適切な対策や条件整備の充実と拡充
 - ⑦ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置の拡充、現場を支援できるスクールロイヤーの配置拡充と連携体制の構築
 - ⑧ 「インクルーシブ教育システム」の理念を踏まえた特別支援教育の円滑な推進に向けた条件整備
 - ⑨ 異校種間の連携・接続による連続性のある教育活動の充実
 - ⑩ 高等学校入学者選抜の改善及び、公立高校適正配置に対する適切な対応
 - ⑪ へき地・複式校、小中併置校、小規模校における教育推進に係る諸条件の更なる改善・環境整備の充実
 - ⑫ 校長の人事具申権の尊重と人事異動要綱に基づく適正な配置や見直し
 - ⑬ 校長・教頭・主幹教諭等候補者の選考方法の検討・改善と人材確保に向けた条件整備
 - ⑭ 広域人事、管理職の管外交渉の推進と条件整備
- (5) 教職員の服務規律の保持及び、職責に見合った待遇改善の実現を期する。
 - ① 教職員の服務規律の遵守と法規法令に基づいた適切な学校運営
 - ② 不祥事の根絶に向け、教職員の意識改革や自覚を促す取組の推進
 - ③ 「人材確保法」及び「義務教育費国庫負担制度」の堅持
 - ④ 給与体系の改善と校長・教頭の待遇改善
 - ⑤ 公務員定年制の管理監督職の特例措置の拡充

〈第2号議案〉 令和7年度 各部業務計画案

(1)経営部

1 方針

本会の運営方針・活動の重点を受け、学校経営に法的根拠を据え、教育活動の充実に努める。

- (1) 教育制度、関係諸法規の情報収集と情報の提供、資料化に努める。
- (2) 学校経営上の諸問題や管理運営に関する法制研究を行い、その解決に資する。
- (3) 諸会議等を通じ、会員相互・地区との情報交換を図り、組織の連携・充実・発展に努める。



北村 剛 経営副部長
(石狩市立花川南中学校)

2 業務計画

(1) 諸会議の開催

① 経営部研修会

- | | | |
|-----------|----------|---------------------|
| 第1回経営部研修会 | 4月25日(金) | 方針、業務推進計画の検討 |
| 第2回経営部研修会 | 2月6日(金) | 年度反省、次年度への課題・展望とまとめ |
| ② 小中合同学習会 | 7月18日(金) | 質問・要望に対する学習会、道小と連携 |

(2) 法制研修会、地区別教育経営研究会の開催（今年度は道中が担当）

① 法制研修会の開催について

- ・単独開催の期間は、8月までを原則とするが、遅くとも10月までには完了する。
- ・講師・助言者は、各地区で確保する。
- ・法制研修会の会場費は、各教育局に請求する。（地教委との事前確認が必要）
- ・道中事務局からの役員の派遣は、原則として行わない。

② 地区別教育経営研究会の開催について

- ・開催期間は、原則として8～10月の3か月間とする。ただし、9月下旬又は10月上旬の木金曜日は学校行事と重なるためできる限り避け、夏季休業中の期間が望ましい。
- ・法制研修会と合同開催の場合、開催計画書【様式1】に法制研修の項目を入れて提出する。
- ・地区別教育経営研究会には、合同開催であっても、道中事務局より、役員を派遣することを原則とする。
- ・派遣役員の任は、各地区へのお礼や激励及び情勢報告や質問等に対する回答が主であり、講師を目的とした派遣ではない。
- ・事前に各地区から「質問事項」【様式2】を集約し、それに対する調査研究を行い、回答をする。
- ・事前に派遣される担当幹事と地区担当者が綿密に説明時間、質疑の時間等を打合せ、各地区のニーズに合った研究会になるようにする。
- ・会場費については、日本教育公務員弘済会北海道支部に請求すると、運営費として補助される。ただし、事前の申請が必要となる。

(3) 法制研究集録（今年度は道小が担当）及び学校経営の資料（今年度は道中が担当）の編集

- ・法制研究集録第56集は道小が担当し、HPに2月掲載予定。
- ・学校経営の資料は道中が担当し、7月中旬に各地区校長会へ送付予定。
- ・学校経営の資料はページ数を増やさないよう、URLやQRコード等を掲載するなど工夫する。
- ・学校経営の資料の表紙は、挿絵に限定することなくモノクロ写真やマーク、模様なども可とする。

(4) 関係諸団体との連携（日本教育会他）

(2)研修部

1 方針

新基本主題『豊かな人生を切り拓き 持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育』のもと、道中研究大会において研究交流を深めるとともに、各地区における研究を基盤とした研究活動の充実に努め、校長としての識見や指導力の向上を図る。「全日中新教育ビジョン」の内容を踏まえた研究活動を更に推進し、学校経営の充実に寄与する。

教育課程の編成・実施に資する調査研究を推進し、今日的課題の解明に努め、学校教育の推進と向上に役立てる。他部との連携を図り、業務の円滑な推進に努める。



川原 明子 研修副部長
(札幌市立稲積中学校)

- (1) 第76回全日本中学校長会研究協議会香川大会(10月22日・23日・24日)の円滑な運営と研究内容の充実に努めるために、開催地区並びに各地区研修担当者との連携を密にする。
- (2) 第66回北海道中学校長会研究大会胆振・室蘭大会(9月26日・27日)の円滑な開催及び研究活動の充実に向け、胆振・室蘭小・中校長会との連携を密にする。
- (3) これまでの研究の成果と社会情勢や教育の動向を踏まえ、令和8年度以降の研究推進について研究主題や分科会研究主題についての検討を進める。
- (4) 令和7年度の研究を総括し、令和8年度「研究の手引き」の作成と配付方法についての検討を行う。
- (5) 教育課程に関する情報収集に努め、中学校教育における今日的課題を明らかにし、問題点の解明に寄与する。

2 業務計画

(1) 諸会議の開催

- | | |
|--|-----------|
| ① 第1回研修部研修会 | 4月25日(金) |
| ・研究方針、業務推進計画及び業務推進について | |
| ・第66回北海道中学校長会研究大会胆振・室蘭大会、第76回全日中研香川大会について | |
| ・令和8年度「研究の手引き」の作成について | |
| ・教育課程に関する調査について | |
| ・各地区研究推進状況や令和7年度の研究計画について | |
| ② 道中研究大会合同研修会(提案者・司会者等打ち合わせ会) | 7月10日(木) |
| ③ 道小道中合同研修会(学習会) | 7月18日(金) |
| ④ 道中研究大会全体研修会(胆振・室蘭大会→函館大会) | 11月21日(金) |
| ⑤ 第2回研修部研修会 | 2月6日(金) |
| ・年度末反省、次年度への課題の検討と展望・まとめについて | |
| ・令和8年度以降の研究推進について | |
| ・令和8年度第67回北海道中学校長会研究大会函館大会(9月25・26日)について | |
| ・令和8年度第77回全日本中学校長会研究協議会長野大会(10月15・16日)について | |
| ・令和8年度「研究の手引き」について | |
| ・教育課程に関する調査について～結果と分析 | |
| ・各地区研究推進の交流について | |

(2) 研究活動の推進

- ① 第66回道中研胆振・室蘭大会と第76回全日中研香川大会の円滑な運営と研究内容の充実に努めるため、当該実行委員会との連絡・情報交流を積極的に行う。また、道中研分科会提言及び全日中研提案に向けて、研修部として担当地区や発表者へのサポートを早目に行っていく。
 - ② 研究資料及び情報の提供、研究校の紹介、その他、研究活動の推進
 - ③ 各地区研究推進の状況や各地区研究成果の交流を推進
 - ④ 「教育課程に関する調査」の実施と分析、結果報告
- (3) 関係機関との連携・調査、その他
- ① 文部科学省や北海道教育委員会、市町村教育委員会はじめ、全日中等の関係機関との連携や調査依頼について、各地区研修部担当者の協力のもと推進する。
 - ② 第66回道中研胆振・室蘭大会の成功に向けて、実行委員会との連携を密にし、研修部をあげて積極的にサポートを行う。
 - ③ 第76回全日中研香川大会事務局との連携や全日中事務局、各地区研修部担当者等との研究や研修に関する情報交換や連絡・調整を推進する。
 - ④ 教育関係団体との連携・調整を推進する。

(3)対策部

1 方針

本会の運営方針及び活動の重点を受け、学校運営上の諸問題について調査研究を推進し、学校経営の向上に役立てる。また、会員の職責に見合う待遇改善に向けて業務を推進する。

- (2) 生徒指導等に関する情報収集や調査研究から情報提供に努める。
- (3) 会員の身分確立や福利厚生、給与等の待遇改善に関する課題解決に向け、関係機関との連携強化に努める。
- (4) その他、緊急性のある課題や各種調査、情報に関することへの対応に努める。



小泉 寧 対策副部長
(新十津川町立新十津川中学校)

2 業務計画

(1) 諸会議の開催

① 対策部研修会

- ・第1回対策部研修会 4月25日(金) 活動方針、業務計画の検討
- ・第2回対策部研修会 2月6日(金) 業務反省、次年度の展望とまとめ

② 小中合同事務局研修会・学習会 7月18日(金) 道小との連絡・調整・情報交換

(2) 各種調査の推進

① 「令和7年度当初の期限付き教諭配置に係る実態調査」の実施(4月中)

② 調査報告書の発行

・不登校に関する調査

- 4月 令和8年度対策部調査報告書についての検討(対策部内)
- 6月 令和8年度道中対策部調査の推進について(事務局研修会)
- 7月 対策担当理事への意見、要望の集約
- 8月 令和8年度対策部「調査報告書」について原案完成
- 9月 第3回理事研修会において原案の提示
- 11月 各地区対策担当者への意向調査の実施
- 12月 対策部担当者、各地区対策担当者に意向調査結果の送付
- 1月 令和8年度の対策部調査(案)を事務局研修会にて検討
- 2月 令和8年度対策部「調査報告書」の内容を専門部研修会・理事研修会で検討

③ 全日中諸調査への協力

・教育研究部調査 10月

教育課程編成・実施上の諸課題や新しい時代に求められる学校づくり、全日中教育ビジョンを踏まえた、信頼される学校づくりに向けての調査研究への協力

・生徒指導部調査 10月

当面する生徒指導上の課題や、特別支援教育推進上の課題、さらに部活動や安全教育等、健全育成の推進・充実のための調査研究への協力

・給与対策部調査 12月

教員の勤務実態や定数・給与の改善に関する調査研究への協力

※ 教育研究部・生徒指導部調査は全道56校に、給与対策部調査は、道教委担当者に依頼

☆ 全日中調査協力校数について

地区名	学校数	調査校数	地区名	学校数	調査校数	地区名	学校数	調査校数
石狩	38	4	桧山	10	1	帯広市	14	1
後志	24	2	渡島	19	2	釧路	21	2
小樽市	12	1	函館市	19	2	釧路市	15	2
上川	34	3	空知	37	4	根室	20	2
旭川市	26	3	胆振	43	4	オホーツク	48	5
宗谷	21	2	日高	15	2	札幌	96	10
留萌	11	1	十勝	34	3	合計	557	56

※学校数はR6年度、調査校数は学校数を四捨五入した数の1割とした

(4)情報部

1 方針

本会の運営方針と活動の重点を受けて、広報活動のより効果的な業務推進を図り、会員意識の高揚並びに組織活動の強化に努める。

- (1) 広く、本会活動の状況や関係機関の情報、各種資料等を提供する。
- (2) 各地区の活動や会員の研究成果、論説等の交流を図るとともに、各界から教育に寄せられる意見も掲載し、会員の職能向上に努める。
- (3) 教育関係機関・団体との情報・資料の交流並びに相互の連携・協調を図り、教育世論の喚起に努める。



鏡 武志 情報副部長
(苫小牧市立和光中学校)

2 業務計画

(1) 諸会議の開催

- ① 情報部研修会 (定例2回)
第1回 4月25日(金) 本年度の活動方針、業務推進計画の検討・協議
第2回 2月6日(金) 本年度の活動反省、来年度への展望等
- ② 小中合同事務局研修会
7月18日(金) ①道小情報部との研修、交流 ②号外発行の打ち合わせ
- ③ 編集会議 (随時)

(2) 機関誌等の編集・発行

- ① 「道中総会・研修会要項」の編集、発行
令和7年度「第98回総会・研修会要項」の発行(4月25日(金)発行)
令和8年度「第99回総会・研修会要項」の編集(令和8年4月発行)
- ② 会報「道中だより」の発行(予定)
第390号(6月12日) 第391号(7月10日)
第392号(11月13日) 第393号(1月22日) ※PDF配信とする。
- ③ 号外「道小情報・道中だより」の発行
(今年度は道小担当、校正作業は道小・道中が協力して行う)
8月上旬: 北海道文教施策・予算策定に関する要望に対する回答
11月中旬: 8月6日(水)開催予定の道教委との意見交換会・各課懇談会の内容
- ④ 会誌「全道中」第95号の編集、発行(3月発行予定)
今日的課題をテーマとした特集記事を予定。

(3) 道中ホームページ(HP)の充実について

本会活動の状況や各地区発行機関誌、会誌等の交流、関係機関の情報、各種資料等の提供の場としての運用とタイムリーな更新

(4) 全日中機関紙「中学校」の編集協力

特集「学校経営」、シリーズ「経営」、「校長会だより」、「主張」等に関し、全日中編集部協力委員として、執筆割当を計画・依頼

(5) その他

事業、活動の記録

石狩管内の教育関係機関の要となつて

石狩・恵庭小 後藤 章夫

「石狩は一つ!」。管内教育関係機関の合言葉となっている。石狩管内小中学校長会は、新会員25人(中9人)を迎え、7市町村98人(中35人、義務2人)でスタートした。自身の職能向上と管内教育の充実、持続可能な社会の創り手を育成する学校経営を推進するために重点を定めている。関係機関との連携を大切に、管内が一つになった教育を推進していく。

【活動方針】

- 1 信頼される学校経営、管内教育の安定と充実・発展
- 2 職能向上を目指す研修活動の推進と教職員の資質向上
- 3 教育諸課題の把握とその解決
- 4 教育諸条件の整備や福利厚生への推進
- 5 組織の強化と実態に即した会務の推進
- 6 会員相互の交流活動の推進
- 7 子供の資質・能力の育成と教職員が育つ学校経営

【活動の重点】

- ① 人材育成(教頭、主幹教諭、ミドルリーダー等)
- ② 子供が主体となる教育課程の編成

ウェルビーイングの実現のため、「一人一人の校長の力を結集する」後志小中学校長会

後志・京極中 石川 周亨

令和7年度、後志小中学校長会は新たに10人の採用校長を含め、小学校長36人、中学校長24人、計60人で構成している。今年度は、子供一人一人がふるさとに誇りをもち、社会で生きる実践的な力を育成する学校の在り方を究明することで、保護者や地域社会の負託と信頼に応えるとともに、「一人一人の校長の力を結集する」を基本に次の活動の方針を設定し、後志教育の充実・発展に寄与する。

【活動の方針】

- 1 愛情と信頼に基づく、活力ある学校経営の充実
- 2 「生きる力」を育む「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価・改善
- 3 児童生徒理解の充実と、時代の変化に即した生徒指導や個々の教育的ニーズに応える特別支援教育の推進
- 4 会員の共同研究の推進と研究成果の交流による校長自らの研さん
- 5 教職員の一層の資質能力の総合的な向上
- 6 教育諸条件の把握とその整備・充実
- 7 働き方改革と業務負担の軽減の実現を含む教職員の処遇の改善

地区だより

新しい時代に対応した「創意ある取組」と「組織の活性化」を目指して

釧路・鶴居中 名和 勝紀

今年度釧路校長会は新たに11人(採用9人、転入2人)の校長を迎えました。釧路管内の小学校長21人、中学校長15人、小中併置校長3人、義務教育学校校長2人の総勢41人で構成されています。今年度、須藤 光秋会長を中心に、「5項目の方針」を確認し活動を開始しました。

【運営方針】(要約)

- 1 校長としての経営ビジョンを明確に示し、その職責の重さを自覚して「ふるさと釧路に根ざす学校づくり」の経営感覚を磨き、その実践力を高めるために職能の向上に努め、諸課題を解決する。
- 2 教職員として服務規律を徹底し、地域や保護者からの信頼や期待に応え、「子供たちや教職員が明るく、楽しく学べる環境づくり」を志向する学校経営に努める。
- 3 新しい時代に求められる資質・能力など児童生徒の「生きる力」を育成する新学習指導要領の確実な実施に向けて、授業改善やカリキュラム・マネジメントの確立等の取組を進め、自校の教育活動の質の向上を図る。
- 4 教育関係諸団体、特に町村教育委員会と町村校長会との連携協力を密にし、教育の動向や情報を共有して諸課題への対応、解決に向け迅速に行動する。
- 5 釧路校長会綱領を基底とし、会員個々の意識を高め、相互の連携・協働を図りながら、各校の調和のある学校運営を目指す。

「最北の地でつながりを大切に」
～すべての子供たちの未来保障を目指して～

宗谷・稚内東中 吉崎 健一

宗谷校長会は10市町村、中単置校17、併置校4、小単置校30、合計51人で組織されている。今年度も11人の新しい会員を迎え、「未来に夢や希望をもち、ともに生きる豊かな社会を創る人材を育む学校教育の推進」を目指し、つながりを大切に活動をスタートさせた。

【運営方針】

- ① 校長としての使命を自覚し、自らの職能向上に努めると同時に、指導性を発揮し、教職員の研修活動の活性化を図り、保護者や地域の期待に応える学校経営の充実に努める。
- ② 会員相互の理解と連携を深め、活動の活性化を図り、宗谷教育の充実・発展に努める。
- ③ 関係機関や団体との連携をさらに図りながら、教育諸課題の解決にあたりとともに、教育条件整備に努める。

【活動の重点】

- ① 「生きる力」を育む教育課程の編成・実施・評価改善に努め、愛情と信頼に基づく活力ある学校経営の推進に努める。
- ② 研修活動を充実し、職能向上と、教職員の資質能力の総合的な向上に努める。
- ③ 関係機関・団体と連携し、教育諸条件と教育諸課題の改善と整備・充実に努める。
- ④ 校長会の組織を強化し、活動の活性化を図る。

「自走」と「共走」を目指して ～持続可能な新たな学校づくりの推進～

小樽市・北陵中 吉岡 智尋

小樽市中学校校長会は、市の方針「知・徳・体のバランスのとれた人材の育成」に則り、小樽の未来を託すことのできる人材育成を目指す教育推進に向け、研究と実践を積み重ね、着実に成果を上げてきた。

これまでの成果を踏まえ、「小樽市立学校」の一枚をあずかる校長として、その使命と重責を担って「自走」とともに、市教委との連携や横のつながりを大切にしながら「共走」を基本方針とし、自校や市内の課題解決に向けた取組を推進する。

【活動の具体】

- 1 学校運営組織の機能化
 - ・指導的立場としての教務主任の機能化
- 2 小中一貫教育
 - ・分掌内への小中一貫教育の担当の位置付け
 - ・中学校区内の担当者会議・全職員での部会実施
- 3 人材育成
 - ・主幹会のバックアップと主幹間の定期的な交流
 - ・教頭・主幹・主任等の他校見學と、長期的展望に立った小樽市の管理職候補の育成
- 4 業務改善
 - ・校内組織の機能化をベースにした業務の推進

「和心一統」の精神を堅持し、留萌教育の充実と発展を

留萌・初山別中 滝本 秀明

留萌管内小中学校校長会は、今年度3人（新採用2人、他管内より1人）の新会員を迎え、8市町村の会員25人（小14人、中9人、小中併置2人）で組織されている。4月の総会研修会で、村井 亨会長（留萌・東光小）を選出し、以下の方針等を確認し、本年度の各業務を推進している。

【運営の方針】

- 1 校長の使命と責任を自覚し、識見を高める研修の充実と情報の共有等を図る。（研修・情報共有）
- 2 会員相互の信頼関係を深め、組織強化と活動の充実、先を見通した最善の対策を図る。（協働）
- 3 教育関係機関・団体及び地域社会との連携を強化し、諸問題の解決を図る。（外部との連携）

諸先輩方が「和心一統」の指標のもと、管内教育の充実・振興に寄与してきたことを基盤とし、今後も学校が変わること、学校を変えることを躊躇せず、より良くするための新たな取組にチャレンジするとともに、考え、議論し、結論を出して実行する組織を確立し、校長会の活性化と校長一人一人の職能向上を図ることによって、管内教育の充実・発展に向けてこれまで以上に寄与していく覚悟である。

地 区 だ よ り

全ての教育活動で「子供が主語」を実現 ～空知が一体となった課題への挑戦～

空知・夕張中 野村 勝紀

空知校長会は、小玉 剛会長のもと、24市町・91人の会員で構成している。令和7年度は空知の教育の充実・発展に向け、明確な学校経営ビジョンに基づくリーダーシップを発揮し、基本主題「自ら未来を拓き、ともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す学校教育の推進」の解明を目指す。各学校においては「社会に開かれた教育課程」の実現とカリキュラム・マネジメントの推進を図り、ふるさと空知を愛する子供たちの健やかな成長に向けた学校改善に全力で邁進する。

【活動の方針】

- 1 空知の校長としての使命を自覚し、常に研さんに励み、学校の自主性・自律性を発揮して、学校経営の充実・発展に努める。
- 2 校長相互の協力や信頼関係を一層深めるとともに、組織の在り方を再検討する中で、組織運営の効率や業務削減、諸問題の解決に努める。
- 3 空知教育局や各市町教育委員会及び道小・道中などの教育関係機関・団体と緊密に連携し、教育課題の解決にあたり、地域・保護者から信頼される学校づくりに努める。

信頼される中学校教育の創造を目指し、「知恵を結集し、さらに、前へ」

旭川市・六合中 大熊 修一

旭川市中学校校長会は、千葉 雅樹会長のもと、新会員8人（転入・新採用）を迎え、26人の会員で新年度の活動を開始した。「知恵を結集し、さらに、前へ」を基本姿勢と定め、旭川市教育大綱の基本方針「主体的に学び力強く未来を拓く人づくり」の具現化のため、校長会組織の一層の活性化を図っている。

教育改革の動向を見極めながら、会員相互の真摯な研さんと連携を図り、次のような運営方針を掲げ、中学校教育の充実・発展に努めている。

【運営方針】

- 1 中学校長の職能の向上と旭川市の中学校教育の振興を図る。
- 2 旭川市教育委員会をはじめ、北海道中学校長会、関係機関・団体等と緊密に連携を深め、教育諸課題への適切な対応に努める。
- 3 校長としての学校経営力の向上を図り、市民の負託に応える中学校教育の創造に努める。
- 4 定年年齢の引き上げ及び役職定年制の導入、後継者育成等の喫緊の課題への対応に努める。

「信頼されるオホーツク教育」の創造を目指して

オホーツク・網走第五中 中嶋 俊雄

オホーツク管内校長会は、今年度15人の採用校長を迎え、総勢112人の会員でスタートした。ふるさとに誇りと愛着をもち、ともに未来社会の創造に挑戦する児童生徒を育てるために、「チームオホーツク管内校長会」として確かな教育理念と強い使命感をもち、関係機関との連携をより一層強化し、管内的な取組を通して課題解決に努め、地域・保護者の信託に応える学校づくりを推進していく。

【活動の重点】

- 1 愛情と信頼に基づく、活力ある学校経営の推進
- 2 「生きる力」を育む教育課程の編成・実施と評価・改善
- 3 児童生徒理解を深め、時代の変化に即した生徒指導の充実、特別支援教育の組織的な推進、安全・安心な学校生活の実現
- 4 研究活動の推進と成果の交流、校長自らの研さん
- 5 新たな時代に応じた教職員の資質能力の総合的な向上
- 6 組織内や関係機関との連携による組織の強化
- 7 管内教育を巡る教育諸条件の把握、改善と充実
- 8 教職員の処遇改善

未来を切り拓き豊かな社会を創り出す日本人を育成する渡島小中学校教育

渡島・八雲中 増田 正弘

渡島小中学校長会は、澤田 真次新会長のもと、転入校長1人と採用校長16人を迎え、小学校33人、中学校19人の52人で活動を開始した。

【運営方針】

- 1 研修活動の充実
- 2 後継者育成に向けた取組の強化
- 3 「学校における働き方改革」の一層の推進
- 4 持続可能な組織及び活動の改善

【活動の重点】

- ① 新しい時代を担う渡島小中学校の学校経営の充実に努める。
- ② 迅速な情報交流や協働研修の充実を図り、校長としての識見や指導力の向上に努める。
- ③ 次世代の渡島の教育を支える人材育成を図り、後継者育成を進める。
- ④ 教育の動向を踏まえ、教育関係機関・団体及び地域との連携を強化し諸課題の解決に努める。
- ⑤ 渡島の教育全体の動向を各々の学校に生かすために調査と情報発信に努める。
- ⑥ 渡島小中学校長会会員の連携をより一層図り、組織の強化と充実に努める。
- ⑦ 教育環境・諸条件の整備と福利厚生 of 充実に努める。

地 区 だ よ り

こどもまんなかでウェルビーイング

帯広市・西陵中 嶋 健

帯広市中学校長会は、今野 典之会長(南町中学校)以下、14人の会員で組織されている。帯広市校長会の基本方針『校長職 学び専門性を高め合う校長会』の具現化を目指し、7つの校長像の実現のための努力を怠らず学校教育を推進し、市民の負託に応える活動を推進している。

今年度は、校長相互の協力や信頼関係を一層深めるとともに、帯広市教育委員会をはじめ関係諸団体と緊密に連携し、新しい時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮し、学校教育の課題の解決と活動の充実に努める。

【活動の重点】 (要約)

- 1 中学校長会の組織を強化し、活動の充実に努める。(校種間連携の充実等)
- 2 教育課題の解決を図り、学校経営の改善に努める。(服務規律保持、働き方改革の推進等)
- 3 教育課程の整備・充実と地域に根ざした学校づくりに努める。(GIGA スクール構想における個別最適な学びの実現等)
- 4 円滑な教育活動推進のための教育条件の整備・充実に努める。(特別支援教育の充実等)

情報を共有し、課題をともに考え、各学校と連携した、組織を目指して

函館市・港中 白川 卓

函館市中学校長会は、5人の新会員を迎え、会員数19人で今年度の活動をスタートした。毎月、定期的に行う研修会では、教育情勢の共有や各学校の取組を交流し合い、課題があれば意見を出し合って解決策を模索するなど、連携した取組を行っている。校長がリーダーシップを発揮し、教育改革を推進していくことはもとより、校長会として、函館市の教育の充実・発展のため、各関係機関との連携を深め、諸課題を解決する組織として一丸となって取り組むことを大切にしながら活動している。

【基本方針】 (要約)

- 校長会組織を機能させた経営課題の解決
- 「信頼される学校づくり」の創造
- 関係機関との連携、教育条件の整備充実

【活動の重点】 (要約)

- 関係機関等とのネットワーク・CS を活用した教育課題・経営課題の解決
- 市教委、市小学校長会等との連携の充実・深化
- 各種実践交流による校長のマネジメント力の向上
- 管理職後継者および教員の育成に対する指導、及び積極的な支援

論 文

未来を見据えた学校改革 ～中教審諮問を踏まえて～

中川町立中川中学校 大城 郁子

1 はじめに

令和6年12月、文部科学大臣が中央教育審議会に、学習指導要領改訂について諮問した。子供たちが活躍する未来社会を見据え、諮問から得られる視点を踏まえて学校改革を加速したい。以下、諮問から得られる視点と、本校の取組状況を述べる。

2 諮問から得られる視点と本校における取組状況

(1) マルチステージの人生モデルへの対応

諮問では、顕在化している課題として「主体的に学びに向かうことができていない子供の増加」「社会参画の意識、将来の夢を持つ子供の割合等が低い状況」を挙げており、本校の課題に重なる。

本校では、本年3月に新学校教育目標「未来を創る当事者として主体的に学び続ける生徒」を制定、新時代が求める資質・能力の育成に向け、未来への期待を高めるキャリア教育の充実に取り組んでいる。

キャリア教育は特別活動を要しつつ学校教育全体で行うものであるが、多様な働き方に触れる機会が少ない人口1,200人の町で人生マルチステージ時代への転換に対応するためには、職業講話の工夫が重要と考えた。そこで、「複数の職業を経験した商工会青年部長」「IT分野で成功した20代CEO」「複数の会社を経営し世界を飛び回るノマドワーカー」「VR, AR, MRを用いた仮想空間を開発する会社社長」に講師を依頼。講話はポスターセッション形式で、オンラインとリアルを併用して実施する。

(2) 深い学びの実現と学びの自己調整

審議事項の第1では「知識の概念としての習得、深い意味理解」、第2では「学びを自己調整できる学習環境デザイン」が検討事項の1つとされている。

本校では、主体的に学び続ける生徒の育成に向け、学びの自己調整を重視し授業改革を進めているが、端末を活用した非同期の日々の授業において、脳に汗をかいていない子供が散見される。一方、子供が主体的に学びを自己調整し学びに没入する单元では、子供にとって学びがい深めがいのある課題が設定されている。今後は、教育課程企画特別部会における議論を参考に、教科及び单元レベルの本質的な問い等について研修するほか、教育局指導主事を複数回招聘し、教員の教材観、子供観、指導観を高める。

(3) 質の高い探究的な学びの実現

審議事項の第3では「総合的な学習の時間の改善・充実の在り方」が検討事項の1つとされている。

本校では、体験活動や調べ学習にとどまっていた総合的な学習の時間のカリキュラムを見直し、地域探究学習「中川科」を新設した。昨年度は第2学年が「中川町に貢献する」をテーマに試行的に取り組み、町のイベントにおいて、生徒が開発した「ナカガワ牛の肉巻きおにぎり」「中川産小豆餡のどら焼き」「中川産トドマツのアロマオイル」を生徒の手で販売。商品は完売したものの生徒は満足せず、「短時間で商品が完売したことは中川町に貢献したことになるのか」と振り返り、各自の課題を更新した。今年度は、全学年で本格的に「中川科」に取り組む。

(4) 柔軟な教育課程編成に向けた人材育成

審議事項の第4では「柔軟な教育課程編成の促進」が検討事項の1つとされている。指導主事の資質向上等が議論されることとなるが、学校においては、全教員に、未来社会を創る子供たちに必要な資質・能力の育成に向けて教育課程を見直し、教育活動を有機的に結び付け効果を高めるなど、創意工夫あるカリキュラムをデザインする力を育む必要がある。

本校では、人事評価面談の際に担当教科の年間指導計画等を持参させ、計画をともに眺めながら、担当教科において主体的に学びを自己調整する生徒の姿や、「中川科」において教科の学びを活用する生徒の姿等について対話を通してイメージを豊かにするとともに、計画の改善について具体的に指導している。

平均年齢29歳と若い本校の全教員に、学校教育目標が実現したときの子供の姿を鮮明にイメージしてカリキュラムを作成したり、目の前の子供の姿を踏まえてカリキュラムを更新したりすることのできる、教育課程をマネジメントする力を育むよう努める。

3 おわりに

上川管内校長会の新スローガンは「うまくやること」。採用1年目の昨年度は、各方面への心配りの大切さが身にしみだが、過剰であれば学校改革が停滞する。新スローガンを受け、誰もが「うまくやること」に向け考えを巡らせていると思ひ至り、心を強くした。教育は未来を創る。「うまくやること」を肝に銘じつつ、子供たちが未来社会で右往左往することのないよう、覚悟をもって学校改革を進める。



「わずかに見える世界」

乙部町立乙部中学校 桜庭 一宏

「見る」と「観る」は、似たような意味をもつ言葉であるが、使い方とニュアンスが少々異なる。

「見る」は日常的なことや広い意味での視覚的認識であり、「観る」は感情や意味を込めて、じっくりと味わい「観賞」する時に使われる。「観光」の語源となった「国の光を観るなり」も、訪問した国の地形や建物の外見だけではなく、空気感や風土、あるいは文化など見えない部分まで観ることを意味している。

中国の易経には、小人（部下）と君子（リーダー）のやりとりを例にした、こんな一節がある。まだまだ子供が見るレベルの「ものの見方」だ。目先だけでは本質を見抜けない。小人はそれでも良いかもしれないが、君子がそれでは恥ずべきことだ。今度のはぞき見を試みたようだが、それでは視野が狭い。小さなことはそれで良いが、大きなことを行うのはとても無理だ。自分の生き様を観よ。常に自分を振り返って分相応に努め、着実に進め。さらには、国や社会の動きを観よ。視野の広さや見識の深さがあれば、今何が求められているかが分かるだろう。最終的には自分の生き様を再びかえり観よ。超然と構え、些細なことには関わらな。君子が観察力を高め続ける努力を忘れなけれ

ばきつともう問題はないはずだ。

昨年、ある研修で「冰山モデル」を教えていただいた。サン・テグジュペリの「星の王子様」の有名な台詞「大切なことは目に見えない」そのものであった。

例えば、「学力」であるが、一口に学力と言っても様々である。水面に浮かぶ「見える学力」は、認知能力とも言われ、ペーパーテストなどで測れる「知識・技能」である。その下にある「見えにくい学力」は、「思考力・判断力・表現力」であり、さらに下の「見えない学力」は、非認知能力とも言われ、「学びに向かう力・人間性」である。水面下の「学力」が大きくなると、浮力が増し、子供たちが獲得する「見える学力」の部分も大きくなる。逆に、氷山の最上部だけを鍛えたのでは、ますます「思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう力・人間性」は沈んでいき、生きる力は十分に育たない。「見えない部分」をしっかりと意識し、包括的に捉えて伸ばすことが重要となる。

このように物事の本質を見抜くためには、「目に見えるわずかな世界」ばかりに気を取られることなく、常に「見えていない世界」を意識して観るための「洞察力」を磨く必要性を痛感している日々である。



私の「学びに向かう力」とは？

幕別町立忠類中学校 出村 聖

「ありがた山の寒太郎」「そう上手くはイカの嘴」何とも聞き慣れないフレーズだが、妙にテンポが良くせりふの音の響きが心地よい。これは、某TV局の大河ドラマ「べらぼう」の葛屋重三郎（横浜流星）のせりふである。江戸時代にことわざや成句と似た発音の文句を作って言うしゃれのことで地口というそうだ。ドラマを見ていて、ふと疑問に思ったことをその場で検索し、自分の知識として身に付ける。いわゆる私の興味・関心事に過ぎないのであるが、自ら知りたい欲求が勝り、知識として備えた瞬間である。まさしく、「学びに向かう力」～児童生徒が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」～に関わる資質・能力である。

学習指導要領の中では「児童（生徒）が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること」と記されている。ただ、「学びに向かう力」の育成は幼児期から成人まで徐々に進んでいくものである。小学校では、学習内容について理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、その過程や達成状況を自己評価して次に活かしていくなど、自ら学習の進め方を調整するこ

とが大切である。そして、中学校では多様な学習の進め方を実践できる環境を整えることが重要であるそう。でも、何かピンとこない。

以前から、「教員の仕事に生かせる他業種のスキルやノウハウはないか？」とビジネス誌を読む機会が多くあった。また、夜の社交場では、地元の会社経営者や実力のある若手サラリーマンと話を交わしている。そういったことをきっかけに、自分の可能性を更に高める必要性に気付いた。教員として「慣れる」ことはせず、「習熟する」ことを念頭におき、現在、国家資格取得に向けて帰宅後の校長住宅で計画的に個別学習を進めている。

では、私個人としては、この「学びに向かう力」は大いに身につけているように思うが、いつ、どこで、誰に指導されたのかは答えが出ない。おそらく、目に見えない指導の積み重ねや成功体験が私に授けてくれたのだろう。それゆえに「学びに向かう力」は数値や結果だけでは計り知れないほどの資質・能力なのだろう。まずは、何かに興味をもたせることが指導のスタートである。そこから、教員がどう導いていくか、「寒蟬古木をいだつくすふんど」。

文芸

「百の頂に百の喜びあり」

平取町立振内中学校 矢口 学

私は、現任校で一般教員、教頭として過ごし、今年度からは校長として同一校での勤務を継続することになった。長きにわたってこの学校に身を置くことに、運命的な「縁」を感じずにはいられない。

何かと忙しい日々の中、校舎の窓から雄大な日高山脈を眺め、季節によって表情を変えるその姿に癒やされたり、元気をもらったりしている。その山々の中には、日高山脈最高峰 2,052mの幌尻岳も含まれており、登山家の間では、日本百名山の中でも上級者向けの山として、いつかは踏破したい憧れの存在となっている。私は一般教員の頃、山岳会の一員であり、登山ガイドもしている同僚の公務補さんに誘われ、幌尻岳登山に挑戦することになった。登山家の方々も口をそろえて難関と言う理由は、山登りの前に沢登りがあること。少し気を緩めたら流されそうになる勢いの川を何度も渡った後にやっと登山が始まるという厳しい行程こそが上級者向けと称されるゆえんである。「命の危険」も想定される挑戦に不安な私は、中学3年生の息子に同行を頼み、父親としての意地を登山の糧にしようと考えた。しかし現実には甘くはなく、靴づれで苦しんだ沢登り、途中で両足がつってしまい動けな

くなった険しい登山道、何度も「私の頂上はここがいいです」と下山宣言しそうになった。しかし、同じようにつらいはずなのに励ましの声をかけてくれる息子の存在や何とか頂上まで導こうとしてくれている同僚の配慮を無にしてはならないと気持ちを前向きに切り替え、無事に踏破することができた。頂上からの壮大な景色を見て、「1人では決して到達できなかった」ことを痛感し、支えてくれた人たちへの感謝を胸に、無事に頂に立てた喜びを全身で感じるすることができた。

現任校は、生徒数減少から令和6年度から複式中学校となり、配置職員が半減した。そのため、「できない」ことばかり増えたように思えた。しかし地域の多くの方々が、学校を支援するために「人材バンク」を立ち上げてくださり、積極的に行事・授業に協力する体制づくりが形成されつつある。

険しく困難なことが立ち塞がろうとも、諦めず前向きに歩みを進めていけば、手を差し伸べ支えてくれる人が現れ、勇気を与えてくれることを私は登山で学んだ。そして今、学校づくりという「山道」を、地域とともに一歩ずつ進み、喜びを分かち合いたい。

道中事務局日誌

(4月1日から6月27日まで)

※予定分含む

日	曜	業 務 内 容	時刻	場 所	
	1	火	第1回事務局研修会(五役、筆頭副会長、各部幹事、専任職員)	15:00	道特会館
	2	水	第1回副会長研修会(五役、副会長、専任職員)Web	10:00	各学校、事務所
	4	金	第1回五役研修会(五役、各部副部長、専任職員)Web	15:30	各学校、事務所
	5	土	令和6年度第2回運営委員交流会(R6運営委員、R6会長、R6会計理事、R6事務局長、専任職員)	10:30	道中事務所
	9	水	第1回理事研修会(五役、副会長、地区理事、各部幹事、専任職員)Web	15:00	各学校、事務所
	10	木	道教委義務教育課担当 経営部業務挨拶(前田、野澤)	16:00	道教委
	11	金	第1回小中合同研修会(五役)	10:00	道小事務所
	14	月	第2回事務局研修会(五役、筆頭副会長、各部幹事、専任職員)	15:00	ホテルライフオーブ札幌
4	15	火	北海道教科用図書選定審議会Web	14:00	
	17	木	北海道中学校体育連盟 第1回副会長会Web(吉本)	13:00	自校
	22	火	臨時五役研修会(五役、各部副部長、専任職員)Web	10:00	各学校、事務所
	24	木	北海道中学校体育連盟 第1回常任理事会Web(吉本)	13:30	自校
	25	金	令和7年度第98回北海道中学校長会総会・研修会(五役、副会長、運営委員、地区理事、代議員、各部幹事、専任職員)	10:00	ホテルライフオーブ札幌
			第2回副会長研修会(五役、副会長、専任職員)	11:50	ホテルライフオーブ札幌
			第1回専門部研修会(五役、副会長、運営委員、地区理事、各部幹事、専任職員)	15:30	ホテルライフオーブ札幌
	26	土	第2回理事研修会(五役、副会長、地区理事、各部幹事、専任職員)	10:00	ホテルライフオーブ札幌
	28	月	北海道中学校体育連盟 第1回理事会Web(吉本)	13:00	自校

	日	曜	業 務 内 容	時刻	場 所
	2	金	第2回小中合同研修会(五役)	15:00	道小事務所
	9	金	北海道へき地・複式教育研究連盟定期総会(田丸)	9:00	ホテルライフオート札幌
			“社会を明るくする運動”北海道推進委員会(中井)	14:00	札幌第三合同庁舎
	12	月	北海道小学校長会総会・研修会(吉本)	10:00	ホテルライフオート札幌
	13	火	全日中 会計監査会(R6 柴田)	14:00	全日中会館
	14	水	全日中 基金管理委員会(山田)	10:00	オリンピックセンター
			全日中 常任理事会(山田)	10:30	オリンピックセンター
			全日中 理事会(山田, 高橋, 吉本, 代永)	13:30	オリンピックセンター
	15	木	全日中 総会①(山田, 高橋, 吉本, 代永, 亀田, 宮腰屋, 伊藤, 田丸, 前田, 寺口, 木藤, 嶋本, 増田, 宮田, 中田, 土江田, 川原, 北村)	10:00	オリンピックセンター
5	16	金	全日中 総会②(山田, 高橋, 吉本, 代永, 亀田, 宮腰屋, 伊藤, 田丸, 前田, 寺口, 木藤, 嶋本, 増田, 宮田, 中田, 土江田, 川原, 北村)	9:30	オリンピックセンター
			北海道特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会定期総会・研修会(福井)	13:00	ホテルライフオート札幌
			北海道公立学校教頭会総会研修会(中井)	14:30	札幌サンブラザ
	20	火	北海道退職校長会創立60周年記念式典・祝賀会(山田)	15:30	ホテルライフオート札幌
	22	木	「北海道教育の日」道民運動会推進協議会第1回幹事会(田丸)	15:00	自校
	26	月	道教委中島教育長へ要望書手交(山田, 高橋, 道小会長, 道小事務局長, 道公教会長)	9:45	道教委
	27	火	北海道青少年育成協会第1回理事会(小泉)	14:00	第2道通ビル
	30	金	第3回事務局研修会(五役, 筆頭副会長, 各部幹事, 専任職員)	15:00	道特会館
	2	月	日弘教北海道支部第1回幹事会, 第1回運営委員会(高橋)	13:30	ホテルライフオート札幌
			北海道租税教育推進協議会定期総会(山田, R6 河村)	14:00	札幌第二合同庁舎
	3	火	第3回小中合同研修会(五役)	10:00	道小事務所
	4	水	北海道交通安全推進委員会令和7年度定時社員総会(北村)	14:00	ホテルポールスター札幌
			日本教育会北海道支部 第1回理事研修会(山田, 高橋, 田丸)	15:00	かでの2・7
6	5	木	帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業運営協議会(高橋)	10:00	自校
			教職員互助会第1回理事研修会(山田)	14:00	損保ジャパン札幌ビル
			道教委中島教育長への挨拶(五役)	15:30	道教委
	7	土	北海道PTA連合会定期総会(山田, 岡田)	13:00	ホテルポールスター札幌
	9	月	北海道訪日教育旅行促進協議会令和7年度総会(田丸)	10:30	自校
			北海道高等学校奨学会理事会(田丸)	13:30	札幌ガーデンパレス
	14	土	日本教育会北海道支部第47回総会・教育講演会オンライン(山田, 高橋, 吉本)	9:30	自校
	25	水	第4回事務局研修会Web(五役, 筆頭副会長, 各部幹事, 専任職員)	10:00	道中事務所, 自校
	27	金	北海道中学校体育連盟 第2回副会長会(吉本)	13:00	未定

発行者 会長 山田 誠一 事務局 札幌市中央区北1条西3丁目

北海道中学校長会

敷島プラザビル4F

TEL011-251-1344 FAX011-251-1302

編集者 道中情報部 <http://www.dochu-kochokai.jp/>